



第52代理事長宮本洋之氏は、『響かそう元気!人から地域(まち)へ』をスローガンに会員数42名のスタートとなった。沢山の方々との接することで、四国で最初の青年会議所という歴史を持つ八幡浜青年会議所の存在感・重圧感を感じ、今まで気がつかなかったLOM内、そして自分自身のことを知ることが出来たという。市町村合併をふまえ、よりよい地域づくりについて地域住民を対象とした勉強会を実施し、八幡浜市長選挙での公開討論会に関わることが、地域の皆様にとってもメンバーにとっても意義あるものになった。この事で、何事もタイミング・チャンスを見逃さず行動していくことが必要だと感じた。タイミング・チャンスは必ずいつかどこかにある。その時を見逃すことなくチャレンジすることが必要である。

- 1月6日 新年祝賀会
- 1月12日 八幡浜児童合唱団第29回定期演奏発表会
- 1月30日 新年総会・懇親会
報道関係者との懇談会
- 2月9日 駅伝カーニバルへの参加
- 2月17日 創立記念日例会
- 3月4日 LOM内発表会「3分間スピーチ」
28~29日 八幡浜児童合唱団全国大会と大会
- 4月1日 会頭公式訪問例会
- 4月18日 一般勉強会「公開討論会」
- 4月29日 飛行大会への参加
- 5月11日 福祉のつどい
- 5月18日 愛媛ブロックスポーツ交流大会(東予)
- 6月14日 愛媛ブロック会員大会・南宇和30周年(南宇和)
- 7月1日 LOM内発表会「5分間スピーチ」
- 8月6日 臨時総会
- 9月20日 企業訪問「仙味エキス」
- 10月4~5日 第52回全国会員大会(福井)
- 10月7日 LOM内発表会「10分間スピーチ」
- 10月11日 白杵JCとの交流会
- 10月18日 秋祭り「てやてや踊り競演大会」参加
- 10月31日 仮入会ガイダンス
- 11月3日 大洲おまつり村参加
- 12月2日 年末総会および卒業式

公開討論会
主催 八幡浜青年会議所



第2回 いろは塾

～自立・生きる力～ 委員長 伊藤 篤司

「大島わくわくキャンプ」
キャンプ・ネイチャーゲーム・星の観察

子供達が島でのキャンプ活動を通じて、自然との触れ合いを楽しみ、また日常生活から離れた自然の中でテント設営・旗づくり・オリエンテーリングなど、グループ別の協働事業を行うことで様々な社会性と生きる力を養うことができました。



第53代理事長井上剛氏は、『愛 優しさ 人へ 地域(まち)へ』をスローガンに会員数43名のスタートとなった。二年後、愛媛ブロック協議会の会長を務めることとなる井上剛氏は、「瞬間の一年」と振り返る。主体性を持ちプライオリティーを考えながら、愛媛ブロック協議会 人間力開発委員会の運営もLOMメンバーが主体となり、「佐田岬徒歩行」「ロバート議事法」とブロック事業も行動を重ねた。またペナンで行われたASPACでは、高松JCがエリアB会議の開催に向けLOMそしてブロックの垣根を越え四国のメンバーが絆深き同志の感覚を感じたという。何気なく漫然と過ごしては感じることのできないもの、地域内だけで活動してはわからないものが沢山ある。多くを語らい、楽しさ、意義深さ、かけがえのない時間がここ八幡浜青年会議所にはある。

- 1月5日 新年祝賀会
- 1月16日 八幡浜児童合唱団第30回定期演奏発表会
- 1月29日 新年総会・懇親会
報道関係者との懇談会
- 2月16日 創立記念日例会
26~27日 八幡浜児童合唱団全国大会大会
- 4月3日 佐田岬徒歩行
- 4月6日 JC政経塾(インプロシキング)
- 4月25日 愛媛ブロックスポーツ交流大会(法皇)
- 5月7日 3分間スピーチ勉強会
- 5月9日 愛媛ブロック会員大会(西条)
- 5月14日 JC政経塾(危機管理セミナー)
- 5月26日~30日 新市名に関する街頭アンケート
- 6月8日・15日 新市名に関するアンケート
街頭アンケート報告会
- 6月27日 いろは塾(親子地引綱大会)
- 7月6日 JC政経塾(ゲーム理論を学ぼう)
- 8月6日 臨時総会
- 9月28日 JC政経塾(JCガイダンス)
- 9月30日~3日 第53回全国会員大会(水戸)
- 10月18日 秋祭り「てやてや踊り競演大会」参加
- 11月3日 大洲おまつり村参加
- 11月6日 白杵JCとの交流会
- 12月2日 年末総会および卒業式



第3回 いろは塾

～自然とのふれあいから学ぶ親子参加型地曳網体験～ 委員長 竹内 伸行

「親子地曳網体験」海岸清掃・親子での地曳網体験
・海鮮パーベキュー

子供達が普段体験することのできない地曳網体験から、親子のふれあいはもちろん大自然とのふれあいを楽しみ、そのふれあいの中で、協力することの大切さや人を思いやる心を学びました。また、一つの目標に向かって網を引く中で連帯感や達成感を得る事業となりました。

